



2024年3月期

決算説明資料

株式会社翻訳センター [証券コード：2483]

2024年5月

Table of Contents

- 会社概要
- 連結決算概要
- 2025年3月期業績予想
- 成長戦略
- Appendix

Section 1

- 会社概要
- 連結決算概要
- 2025年3月期業績予想
- 成長戦略
- Appendix

会社概要

企業理念

産業技術翻訳を通して、国内・外資企業の国際活動をサポートし、国際的な経済・文化交流に貢献する企業を目指す

経営ビジョン

すべての企業を世界につなぐ言葉のコンシェルジュ

人と人とのコミュニケーションになくてはならないのが「言葉」です。
国や言語が違って「言葉」は世界の人々が理解し合うための重要なツールです。
翻訳センターは、「言葉」でお客様を世界につなぎます。

会社名	株式会社 翻訳センター	関係会社	株式会社アイ・エス・エス 株式会社メディア総合研究所 株式会社FIPAS 株式会社パナシア 株式会社福山産業翻訳センター HC Language Solutions, Inc. ランゲージワン株式会社（持分法適用会社）
本社所在地	大阪本社：大阪府大阪市中央区久太郎町4丁目1番3号 東京本社：東京都港区三田3丁目13番12号	事業内容	翻訳事業、通訳事業、派遣事業、 コンベンション事業、通訳者・翻訳者養成、 外国特許出願支援、メディカルライティング、 多言語コールセンター
代表者	二宮 俊一郎		
設立	1986年4月		
資本金	5億8,844万円（2024年3月末現在）		
従業員数	562人（2024年3月末現在）*連結		
事業所	【国内】大阪、東京、名古屋 【海外】カリフォルニア		

Section 2

- 会社概要
- 連結決算概要
- 2025年3月期業績予想
- 成長戦略
- Appendix

2024年3月期業績ハイライト

売上高

11,303百万円

前期比+3.2%

営業利益

902百万円

前期比△2.8%

経常利益

938百万円

前期比△2.2%

当期純利益

711百万円

前期比+3.5%

POINT.1

派遣、通訳、コンベンションの各事業が連結売上高を下支え

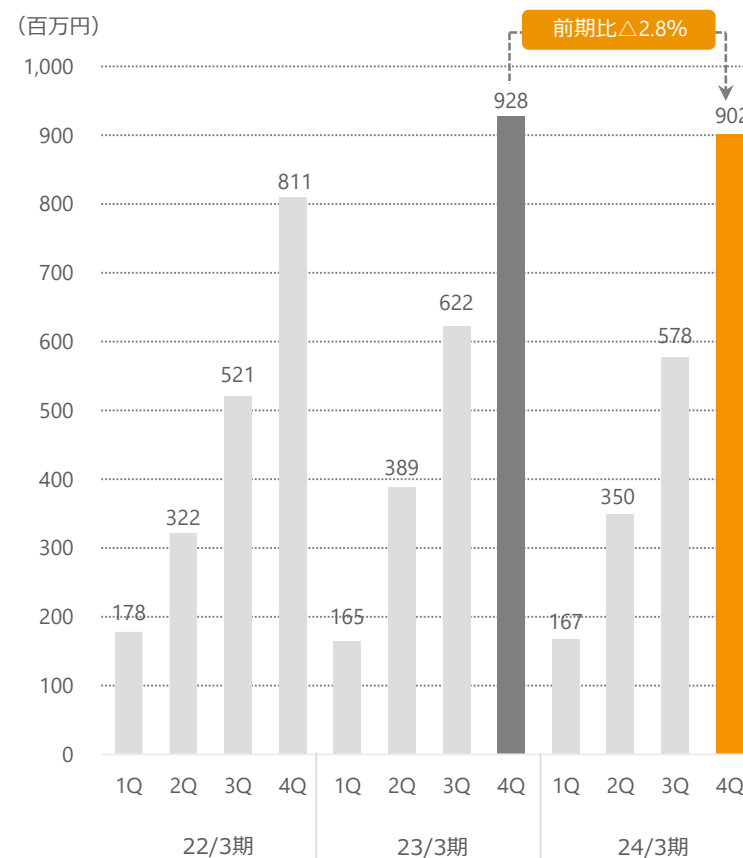
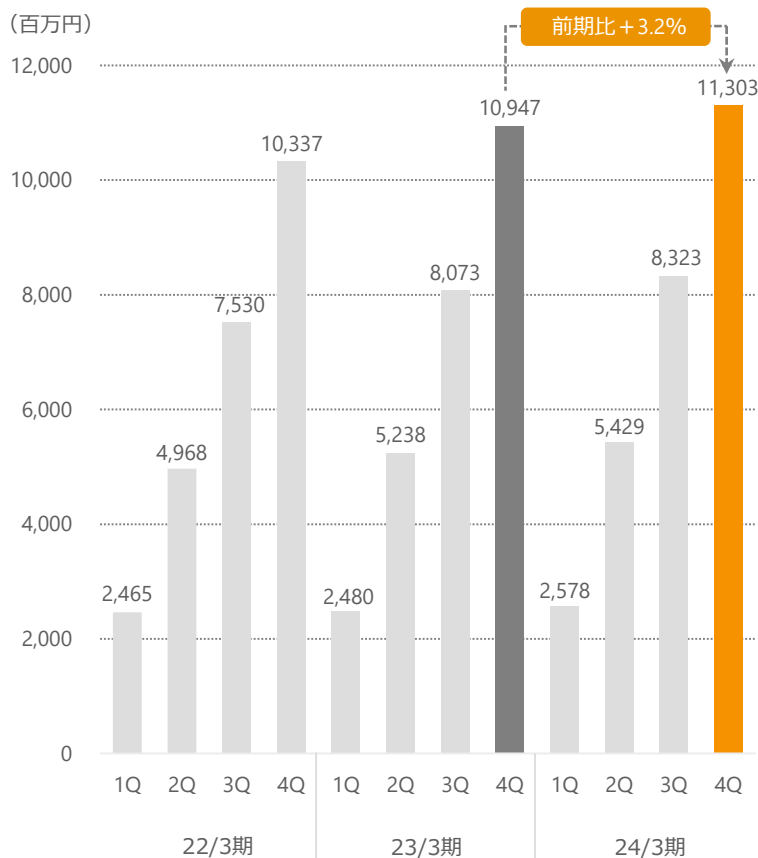
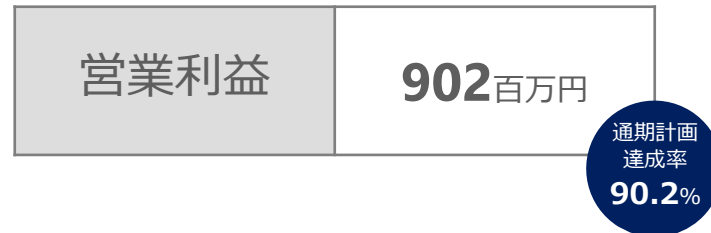
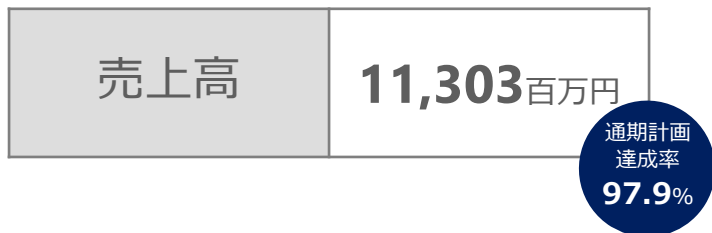
POINT.2

販管費の増加と翻訳事業の医薬分野における減収が利益を圧迫

POINT.3

福山産業翻訳センターのグループ会社化に伴う負ののれん発生益計上により、最終利益は増益

2024年3月期業績サマリー

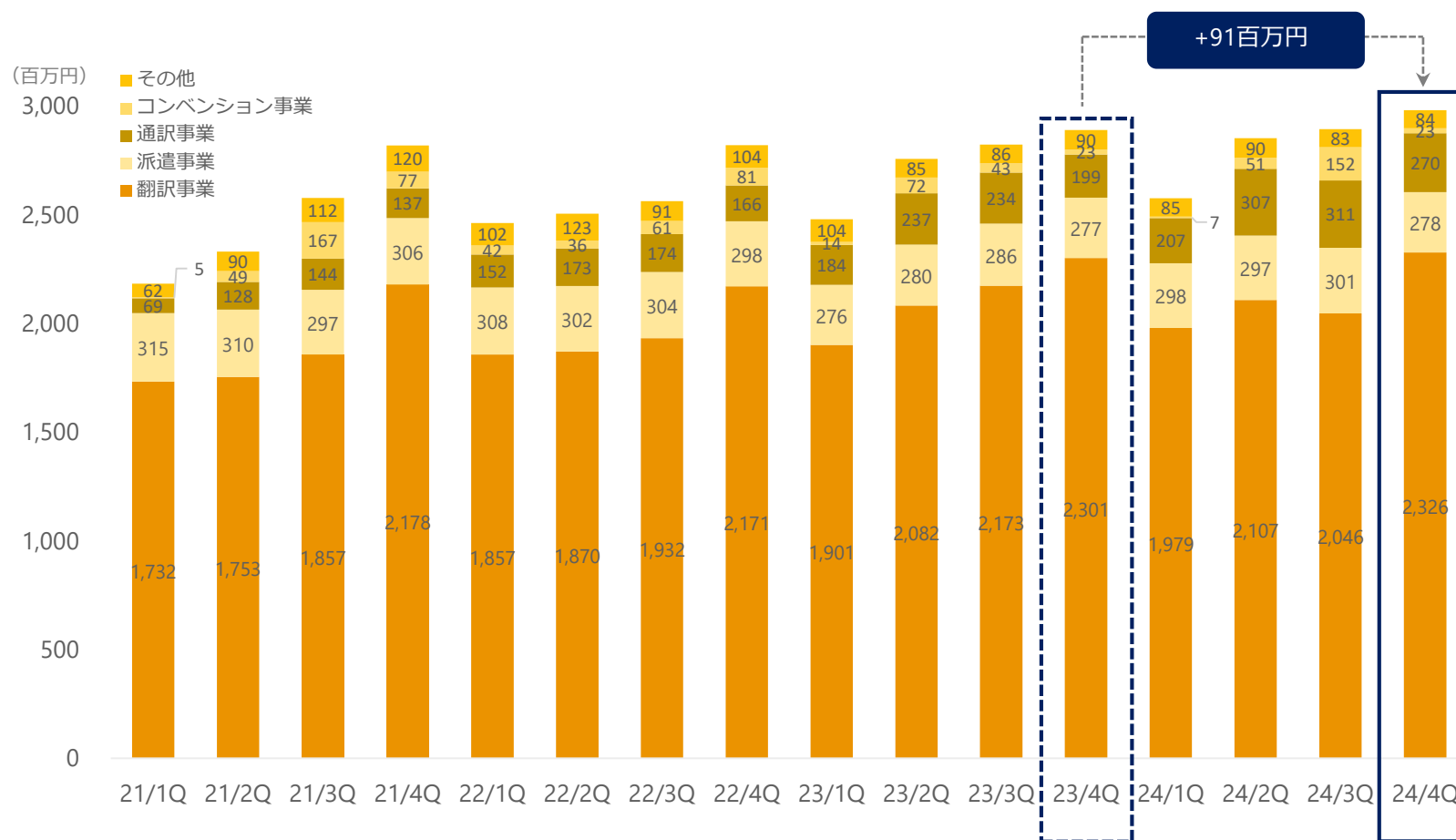


2024年3月期業績

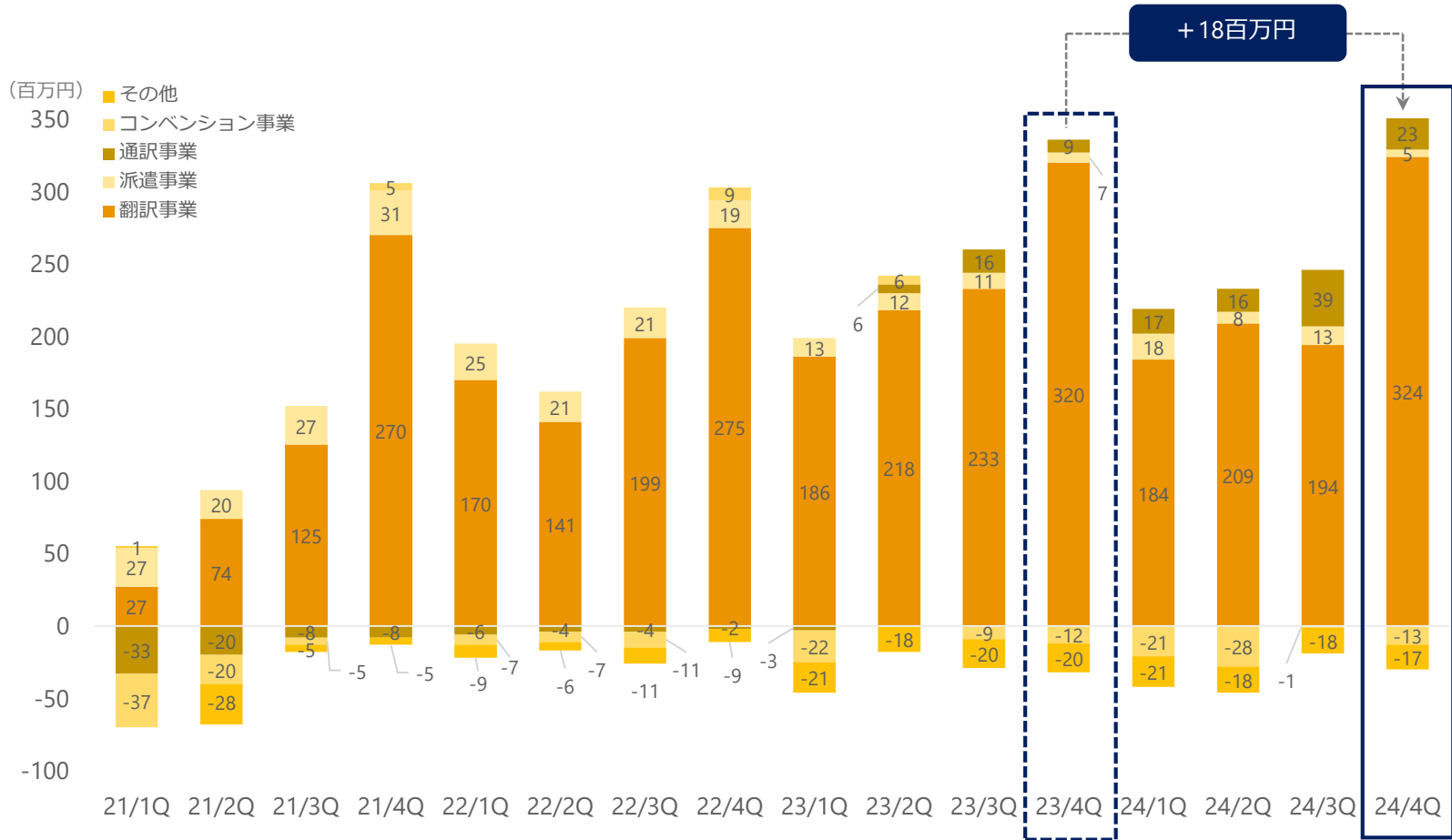
(百万円)

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	増減	前期比
売上高	10,947	11,303	356	3.2%
翻訳事業	8,457	8,458	1	0.0%
特許	2,708	2,902	194	7.1%
医薬	2,796	2,605	△191	△6.8%
工業・ローカライゼーション	2,376	2,368	△8	△0.3%
金融・法務	575	582	7	1.1%
派遣事業	1,119	1,174	55	4.9%
通訳事業	854	* 1,095	241	28.2%
コンベンション事業	152	233	81	53.3%
その他	365	342	△23	△6.3%
売上原価	5,860	5,990	130	2.2%
売上総利益	5,087	5,313	225	4.4%
売上総利益率	46.4%	47.0%	0.6pt	—
販売管理費	4,159	4,410	251	6.0%
営業利益	928	902	△25	△2.8%
経常利益	960	938	△20	△2.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	686	711	33	3.5%

事業別売上高 四半期推移 (会計期間)



事業別利益 四半期推移 (会計期間)



Section 3

- 会社概要
- 連結決算概要
- 2025年3月期業績予想
- 成長戦略
- Appendix

2025年3月期予想

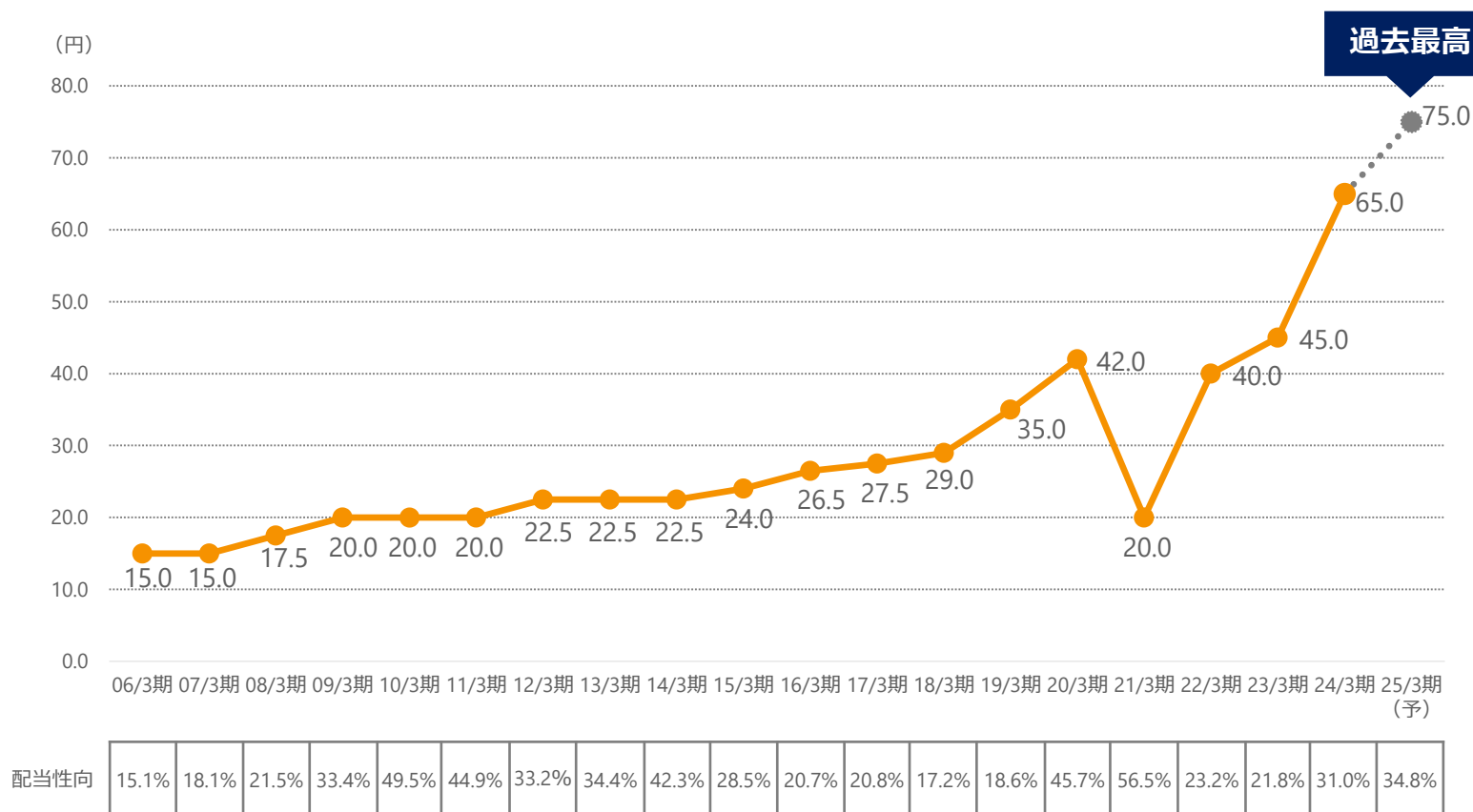
(百万円)

	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	増減	前期比
売上高	11,303	12,100	796	7.0%
翻訳事業	8,458	9,240	781	9.2%
特許	2,902	3,130	227	7.8%
医薬	2,605	2,960	354	13.6%
工業・ローカライゼーション	2,368	2,510	141	5.9%
金融・法務	582	640	57	9.8%
派遣事業	1,174	1,220	45	3.8%
通訳事業	1,095	1,260	164	15.0%
その他*	575	380	△195	△33.9%
売上原価	5,990	6,300	309	5.1%
売上総利益	5,313	5,800	486	9.1%
売上総利益率	47.0%	47.9%	0.9pt	—
販売管理費	4,410	4,750	339	7.6%
営業利益	902	1,050	147	16.3%
経常利益	938	1,080	142	15.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	711	720	8	1.2%

*コンベンション事業はコロナ前と比較してグループ全体の売上・利益に占める割合が相対的に低くなったため、2025年3月期より「その他」の事業に含めて報告する方法に変更いたします。そのため、2024年3月期のコンベンション事業の実績につきましては「その他」に含めております。

株主還元

2024年3月に配当方針を変更し、配当性向の目標を35%に制定。25/3期の配当予想は前期比10円増配の75円/株（配当性向34.8%、二期連続で過去最高を予定）。



*2013年4月1日付で普通株式1株につき100株の株式分割を、また2018年4月1日付で普通株式1株につき2株の株式分割を実施しております。上記グラフでは当該株式分割に伴う影響を加味し、遡及修正を行った場合の1株当たりの指標の推移を記載しています。

Section 4

- 会社概要
- 連結決算概要
- 2025年3月期業績予想
- **成長戦略**
- Appendix

国内翻訳・通訳の市場規模

国内の翻訳・通訳市場はコロナ影響を受けたもののコロナ禍前の水準にまで回復。また寡占とは程遠い市場であり、当社の市場シェア拡大余地は十分にある。

国内の翻訳・通訳市場
(2023年度予想)^{*1}

3,080億

コロナ禍前の2019年度は2,970億。2020年度には2,540億と大幅減少するも徐々に回復し、2022年度は2,930億。2023年度はコロナ禍前を上回る過去最高の水準を予想。

当社シェア^{*2}

3.7%

日本には約2,000社（推定）の翻訳会社が存在すると言われている一方、年商10億超の翻訳会社は当社を含めて9社^{(*)3}しかなく、小規模事業者の多い業界とされている。

*1 「語学ビジネス徹底調査レポート」（矢野経済研究所）

*2 当社2023年3月期連結売上高（109億4,700万）を2022年度の翻訳・通訳市場規模（2,930億）で除して算出

*3 一般社団法人日本翻訳連盟「2022年度翻訳通訳白書-第7回翻訳・通訳業界調査報告書」P7より当社にて算出

第5次中期経営計画 基本方針

ビジネス環境の変化やデジタル化の進展に対応しつつ、
 業界・ドキュメント別に最適化された言語資産の活用モデルを確立し、
 対象市場でのプレゼンスを高め、持続的な成長を実現する。

重点施策



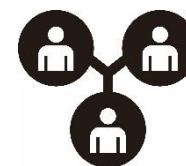
ドキュメント集約メカニズム
の構築

重点施策



ドキュメント別言語資産活用
モデルの確立

重点施策



働き方改革や事業変革を
支える経営基盤の整備

2025年3月期 数値目標	売上高	営業利益*	当期純利益*	営業利益率*	ROE
	121億円	10.5億円	7.2億円	8.6%	12.0%

*2024年5月13日に発表した2025年3月期連結業績予想に合わせて修正

ドキュメント集約メカニズムの構築

創薬・育薬プロセスで発生するドキュメントの特徴に合わせた翻訳サービスを提供。顧客を困り込み、ドキュメントが集約する仕組みを構築。

ドキュメント集約メカニズムの事例（医薬分野）

創薬（研究開発、承認・審査）				育薬 （再審査・再評価）
基礎研究	▶ 非臨床試験	▶ 臨床試験	▶ 承認申請	▶ 製造、販売 市販後調査
主なドキュメント <ul style="list-style-type: none"> ・試験計画書 ・試験報告書 ・製造指図書 ・バリデーション資料 		<ul style="list-style-type: none"> ・治験薬概要書 ・治験実施計画書 ・治験総括報告書 	CTD（コモン・テクニカル・ドキュメント）	<ul style="list-style-type: none"> ・添付文書 ・CIOMS ・症例報告 ・PSUR
基礎研究から市販後調査まで、各ステージで発生する、あらゆるドキュメントの翻訳に対応				
ドキュメント間の相互の関連性に配慮した品質管理体制の構築				

NEXT

医薬品開発資料や特許明細書に続く、次の収益の柱を育成する。当社の強みが活きるターゲット市場をドキュメント単位で設定し、ドキュメント種類に合わせたサービス改善と効果的なマーケティング活動を行なっていく。

ドキュメント集約メカニズムの構築

株主総会資料や決算短信を中心にIR関連ドキュメントの受注件数は年々拡大。東証の市場再編に伴う英文開示ニーズを取り込み、さらなる受注拡大を狙う。

英文開示の高速サービスで市場のニーズに対応

プロネクサスとの協業による販路拡大



開示書類に関する
知見・情報

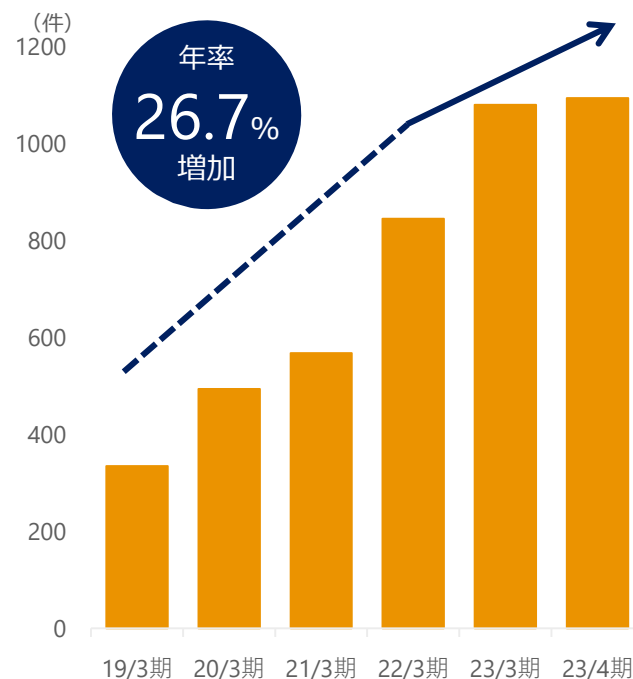
PRONEXUS



翻訳に関する
技術・実績

**HONYAKU
CENTER**
New Standards in Translation

IR関連ドキュメントの受注件数推移

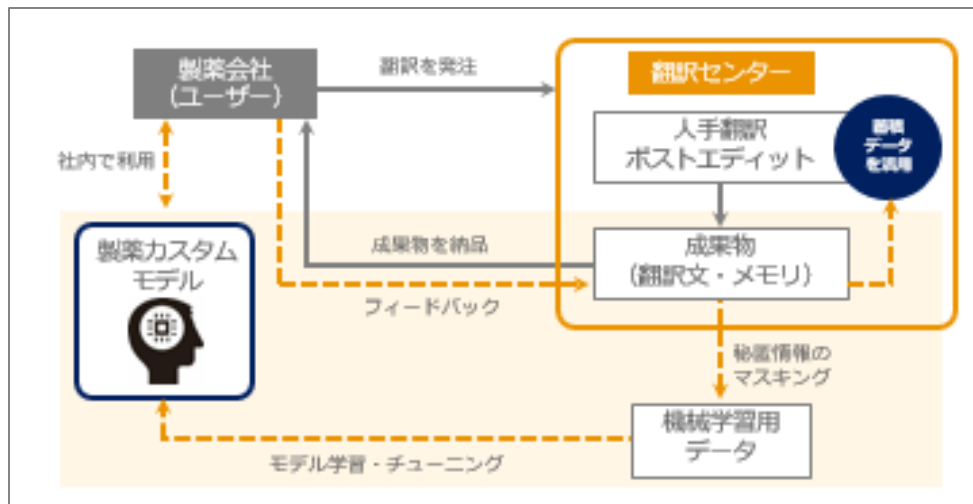


市場再編

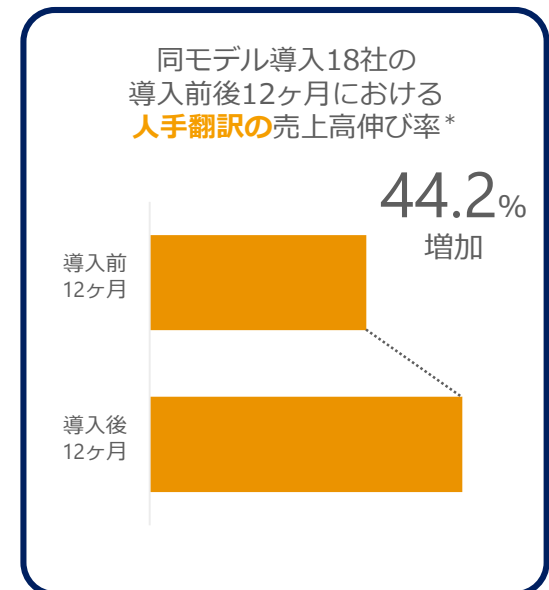
ドキュメント別言語資産活用モデルの確立

特定ドキュメントに特化した機械翻訳を開発・提供。当社に発注を集約することでモデルの継続的な精度向上に繋がる仕組みを構築し、導入企業内シェアを拡大。

ドキュメント別言語資産活用モデルの事例（製薬カスタムモデル）



[製薬カスタムモデル 概念図]



NEXT

製薬カスタムモデルのコンセプトを他分野で横展開する。

*製薬カスタムモデルへのコーパス（機械学習用データ）拠出企業は27社、うちモデル導入は19社（2024年3月末時点）

| 取り組み事例

オルツと連携し、生成AIを活用した共同プロダクト開発のための実証実験を開始。^{*1}



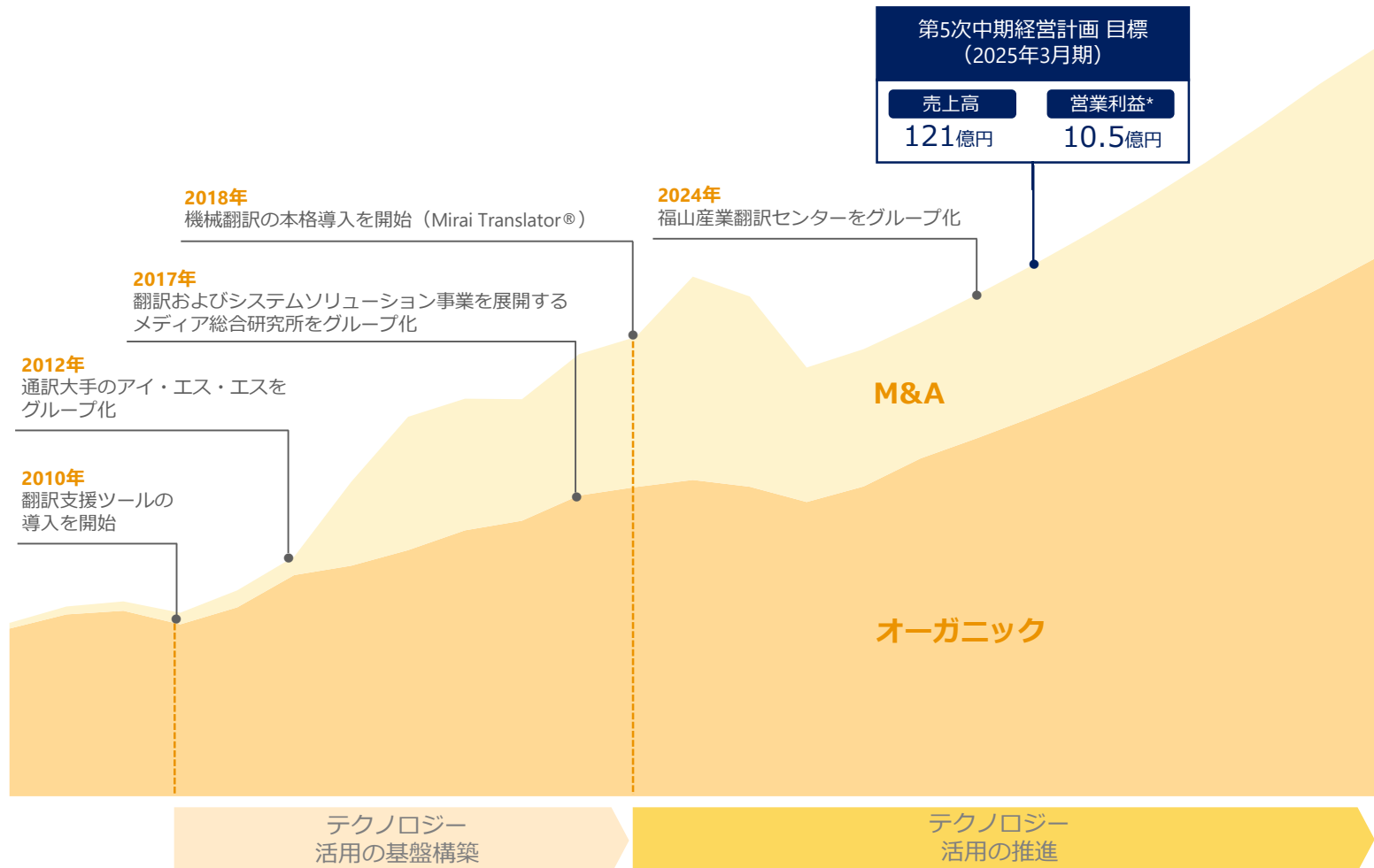
POINT

オルツの「LHMT-2」やChat GPTに代表される大規模言語モデルを当社ドキュメントで活用した場合の問題点や課題を検証し、効果的な活用場面や活用方法を明らかにすることで、新たなサービスの開発に繋げる。

* 2023年5月11日発表の共同プレスリリース（PR情報）より

成長イメージ

社会の変容を的確に捉えた需要やサービスの可能性を追求し、さらなる成長を図る。

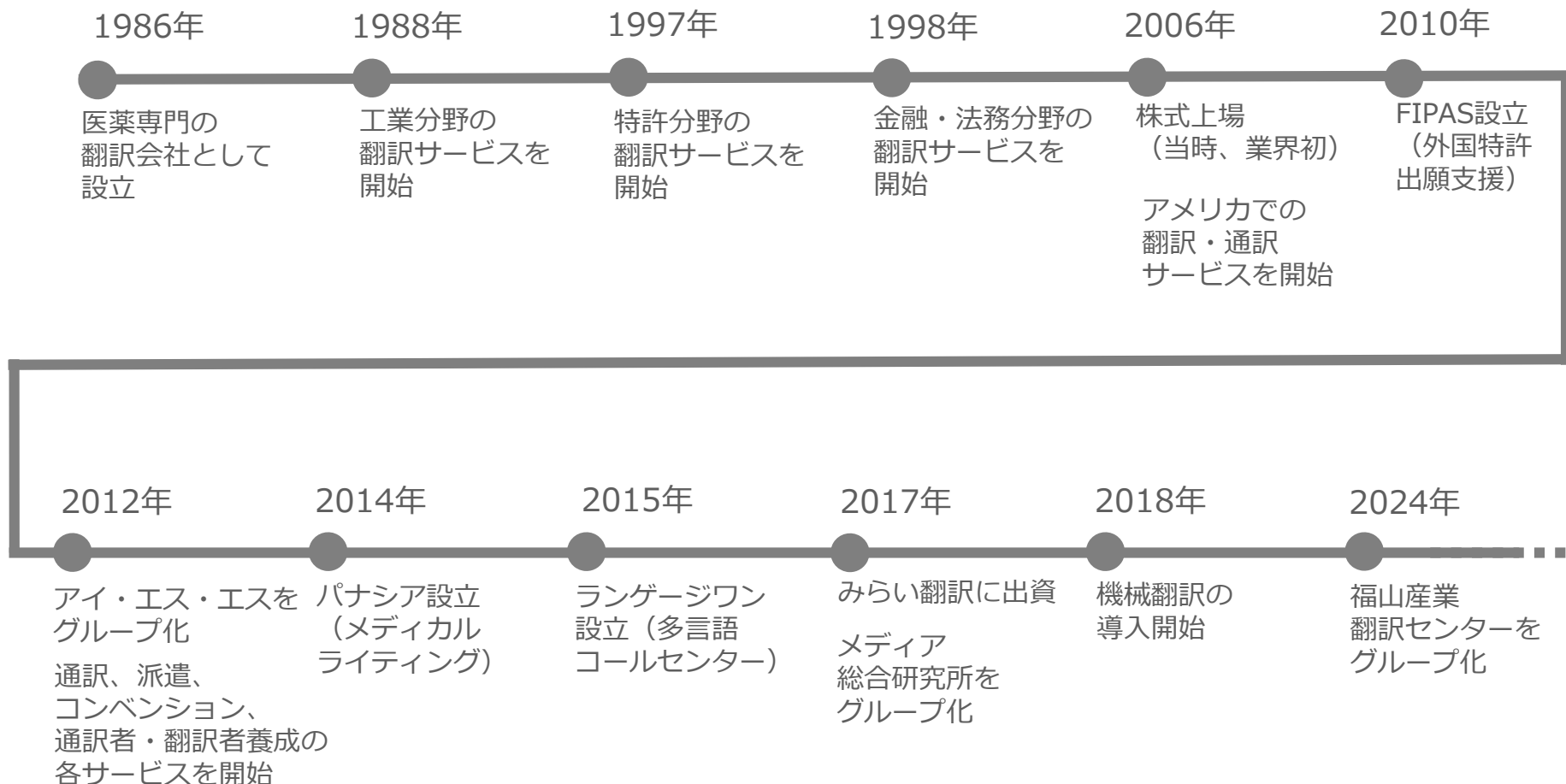


*2024年5月13日に発表した2025年3月期連結業績予想に合わせて修正

Section 5

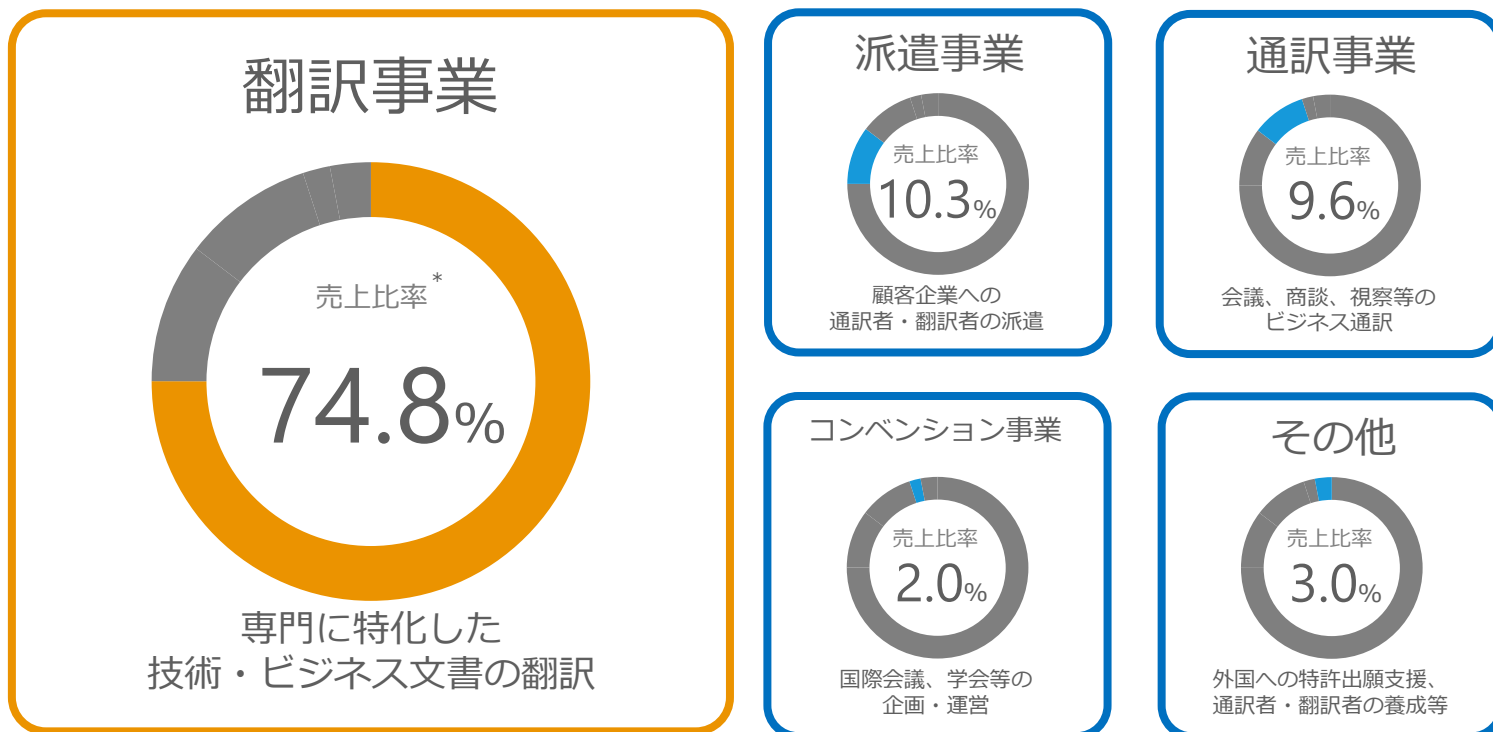
- 会社概要
- 連結決算概要
- 2025年3月期業績予想
- 成長戦略
- Appendix

| 沿革



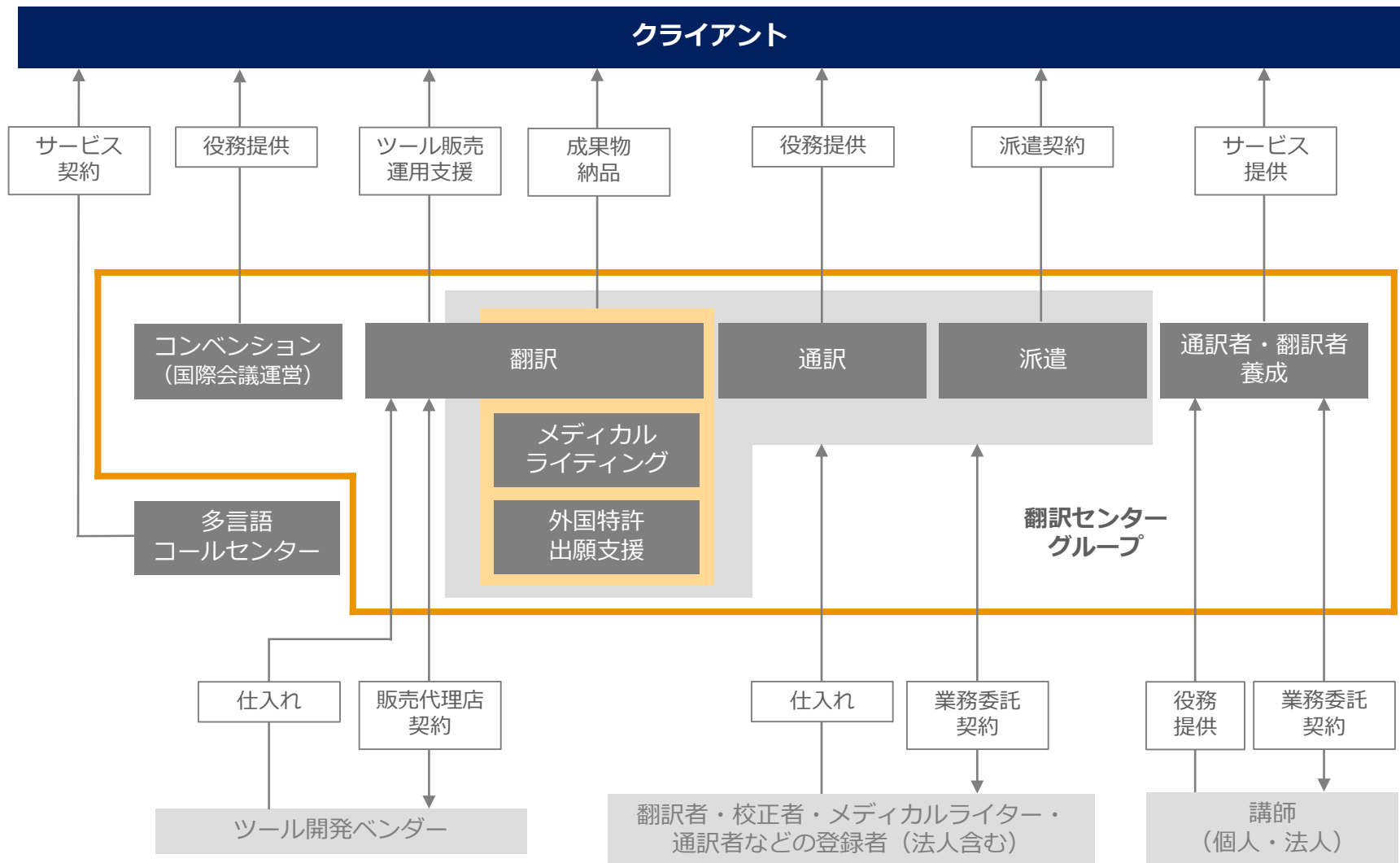
事業概要

お客様のグローバルコミュニケーションを総合的に支援する事業を展開



*2024年3月期実績（翻訳事業以外も同様）

事業系統図



| 当社グループの特長



顧客ポートフォリオ



テクノロジーの活用



外国語の総合サプライヤー

顧客ポートフォリオ

幅広い業界・業種、多種多様な顧客のグローバルコミュニケーション需要に対応

顧客数^{*1} **3,500**社

年間受注件数^{*1} **49,000**件

医薬品・医療



- ・ 医薬品
- ・ CRO
- ・ 医療機器
- ・ 大学、病院

[取引実績]^{*2}
 世界売上高
 100億ドル超
 26社の96%

特許



- ・ 特許事務所
- ・ 企業知財部
- ・ 特許調査会社

[取引実績]^{*3}
 出願件数上位
 100事務所の
 約70%

製造業



- ・ 自動車
- ・ 機械
- ・ 電機、電子
- ・ エネルギー

非製造業



- ・ 情報、通信
- ・ サービス
- ・ インフラ

金融・保険・法律



- ・ 証券、銀行
- ・ 損保、生保
- ・ 法律事務所

官公庁・公社



- ・ 官公庁
- ・ 独立行政法人
- ・ 公益法人

*1 2024年3月31日時点

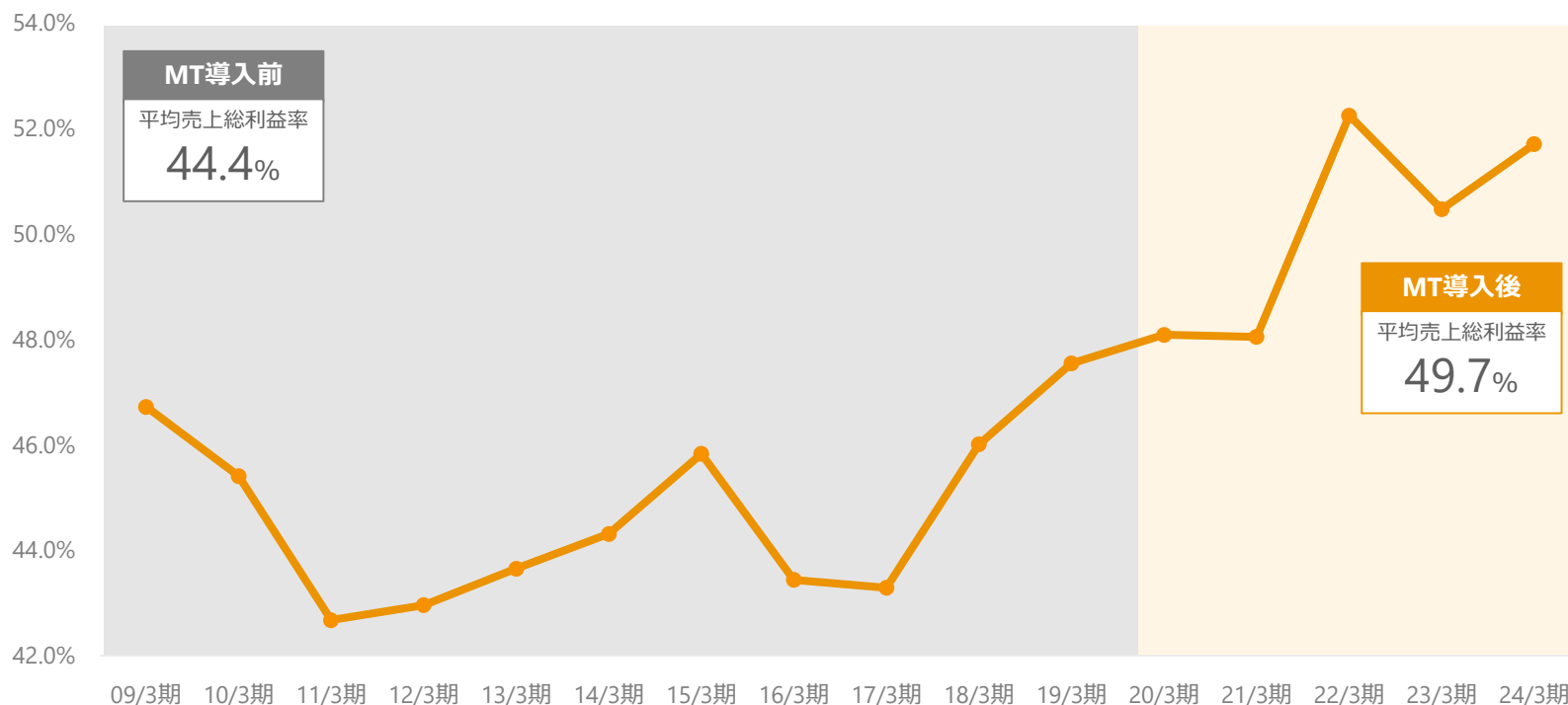
*2 2022年12月期（一部の日本企業は2023年3月期、豪CSLは2022年6月期）の世界売上高が100億ドルを超える企業26社をランキングして算出

*3 知財ラボ「2022年特許事務所ランキング（<https://jp-ip.com/ranking-list/index/2/1>）」をもとに算出

テクノロジーの積極活用

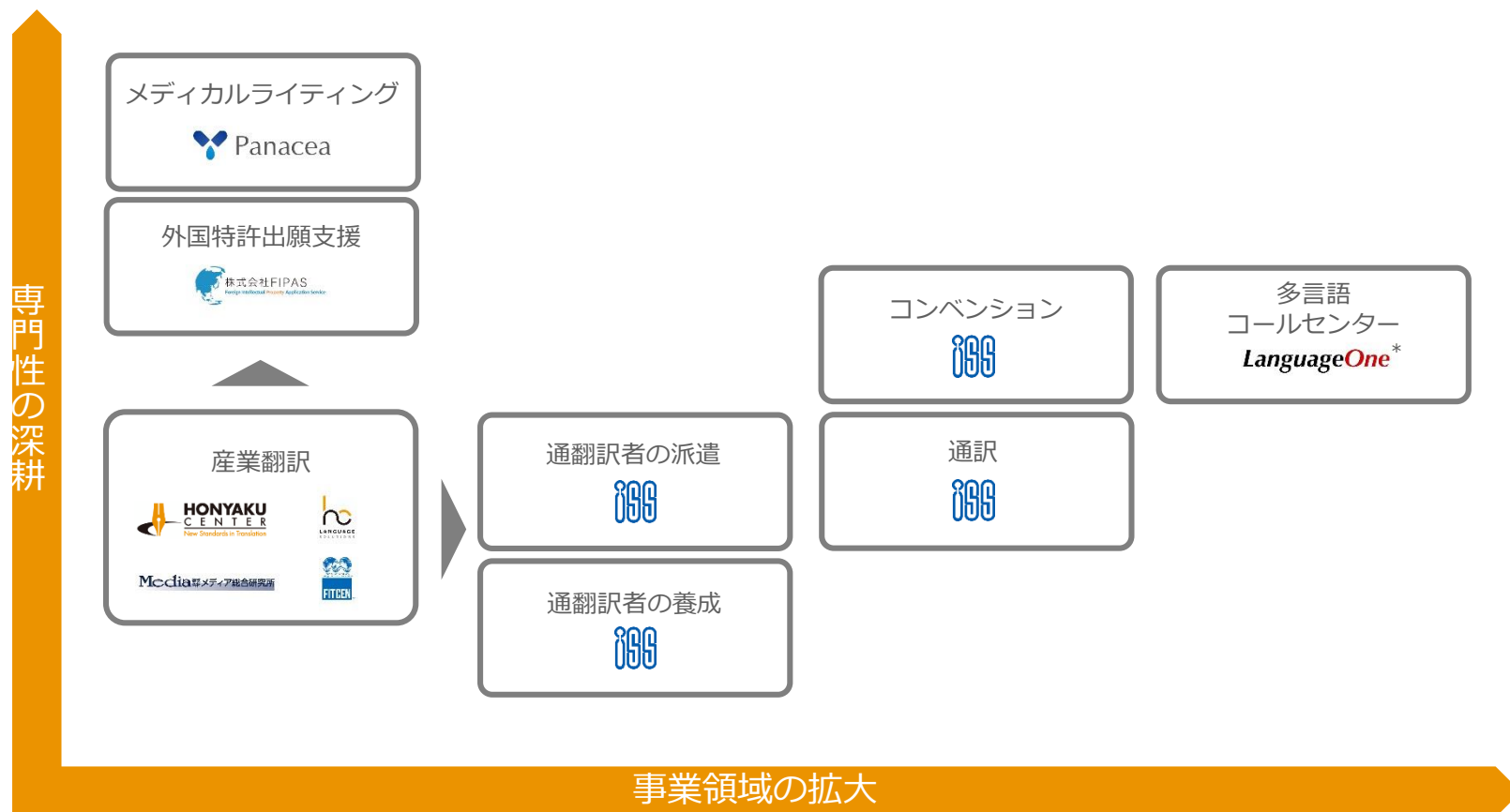
当社は機械翻訳（MT）の有効性に着目し、業界内でいち早くMTの活用戦略を開始。翻訳制作フローにMTを導入して効率化を推進、売上総利益率（単体）の向上を実現。

売上総利益率（単体）推移



外国語サービスの総合サプライヤー

1986年の設立以来、産業翻訳を軸に成長し、翻訳周辺ビジネスにも参入。現在では外国語のトータルソリューションが提供可能なグループに成長。



*持分法適用会社

業績推移

(百万円)

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
売上高	12,008	11,550	9,910	10,337	10,947	11,303
経常利益	905	822	465	841	960	938
親会社株主に帰属する当期純利益	630	304	117	573	686	711
資本金	588	588	588	588	588	588
発行済株式総数 (株)	3,369,000	3,369,000	3,369,000	3,369,000	3,369,000	3,369,000
純資産額	4,350	4,545	4,524	5,090	5,672	6,250
総資産額	6,486	6,222	6,295	7,172	7,486	8,326
自己資本比率 (%)	67.0	73.0	71.8	70.9	75.7	75.0
売上高経常利益率 (%)	7.4	7.0	4.7	8.1	8.7	8.2
連結従業員数 (人)	507	522	509	520	521	562
登録者数 (人)*	2,889	3,030	3,249	2,681	2,815	2,866

*翻訳センター単体

連結財務諸表 推移

(百万円)

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
売上高	12,008	11,550	9,910	10,337	10,947	11,303
翻訳事業	8,506	8,112	7,520	7,828	8,457	8,458
特許	2,139	2,258	2,100	2,316	2,708	2,902
医薬	2,897	2,749	2,875	2,904	2,796	2,605
工業・ローカライゼーション	2,725	2,472	2,038	2,028	2,376	2,368
金融・法務	744	632	505	580	575	582
派遣事業	1,192	1,200	1,228	1,212	1,119	1,174
通訳事業	1,039	1,022	477	655	854	1,095
コンベンション事業	677	782	298	220	152	233
その他	592	432	385	420	365	342
売上原価	6,999	6,625	5,536	5,429	5,860	5,990
売上総利益	5,009	4,925	4,373	4,907	5,087	5,313
売上総利益率	41.7%	42.6%	44.1%	47.4%	46.4%	47.0%
販売管理費	4,108	4,111	3,955	4,096	4,159	4,410
営業利益	900	813	418	811	928	902
経常利益	905	822	465	841	960	938
親会社株主に帰属する当期純利益	630	304	117	573	686	711

連結貸借対照表 推移

(百万円)

	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期
資産の部						
流動資産	5,220	5,213	5,515	6,311	6,611	7,289
固定資産	1,265	1,009	780	861	875	1,036
資産合計	6,486	6,222	6,295	7,172	7,486	8,326
負債の部						
流動負債	1,974	1,503	1,595	1,891	1,618	1,853
固定負債	161	173	175	190	195	221
負債合計	2,135	1,676	1,770	2,081	1,813	2,075
純資産の部						
株主資本	4,332	4,531	4,514	5,068	5,630	6,203
その他の包括利益累計額	17	13	10	22	42	47
純資産合計	4,350	4,545	4,524	5,090	5,672	6,250
負債純資産合計	6,486	6,222	6,295	7,172	7,486	8,326

本資料には、当社に関する業績や見通し、将来に関する計画、経営目標などに関する情報が含まれています。これらは資料作成時点での想定に基づくものであり、これら情報が正確である保証はありません。また開示規則により求められる場合を除き、本資料に記載の情報は予告なしに変更されることがあります。

お問い合わせ先

株式会社翻訳センター 経営企画室

E-mail

ir@honyakuctr.co.jp

IRサイト

<https://www.honyakuctr.com/ir/>